

令和元年度 第1回 京都市環境審議会

日 時 令和元年7月30日（火） 午後3時～5時
場 所 京都ガーデンパレス「鞍馬」
出席者 笠原会長，池本委員，石川委員，一原委員，上田委員，大島委員，高屋氏（大谷委員代理），織田委員，小幡委員，鴻上委員，坂野上委員，塩路委員，田浦委員，瀧委員，千葉委員，中野委員，仁連委員，橋本委員，久山委員，伏見委員，森本委員，山田委員，山本委員，湯本委員，米澤委員
事務局 長谷川環境政策局長，下間地球環境・エネルギー担当局長，板原地球温暖化対策室長，横山環境企画部長，中村環境企画部環境技術担当部長

1. 開会

・長谷川環境政策局長挨拶

委員の皆様には，常日頃から，本市環境行政の推進に御理解，御協力をいただき，また，本日はお忙しい中，御出席を賜り，誠にありがとうございます。

さて，京都市におきましては，本審議会の議論などを通じまして，これまでから徹底した省エネの推進と再生可能エネルギーの普及拡大，その他2Rと分別・リサイクルの徹底によるピーク時からのごみ半減など，市民，事業者の皆様とともに，全国をリードする，低炭素・循環型のまちづくりを力強く推進してまいりました。

お陰様で，環境モデル都市における国の評価で5年連続で最も高い評価を獲得いたしました。併せて，持続可能な社会を目指すSDGsの達成にも貢献しており，今年1月，日本経済新聞が編集・発行する専門誌である『日経グローバル』が行った「全国市区・サステイナブル度・SDGs先進度調査」において，見事総合ランキング1位に選ばれました。これは，815都市をSDGsの観点で「経済」，「社会」，「環境」の側面から評価したものであり，本市においては，特に環境分野において高い評価をいただきました。これも，先生方の御助言や市民・事業者との取組の御蔭であると思っております。

また，本年5月には，本市が誘致した「気候変動に関する政府間パネル」いわゆるIPCCの第49回総会が国立京都国際会館等で開催され，同時に京都市においても開催記念シンポジウムを開催いたしました。その際に，「IPCC1.5℃特別報告書」を踏まえ，世界の平均気温の上昇を1.5℃に抑えるべく，2050年度までの二酸化炭素排出量正味ゼロを目指す「1.5℃を目指す京都アピール」を京都市長をはじめとする登壇者有志で発表いたしました。

一方では，昨年の夏は，記録的な猛暑が続き，また，雨による被害としては平成史上最悪の被害となった西日本豪雨や台風21号の影響で，市内でも倒木が相次ぎ，まさに

異常気象の連鎖となりました。これらの豪雨や熱波、干ばつなどは日本だけでなく世界各地でも発生しており、先日、パリにおいても気温が42℃を上回り72年ぶりに記録更新するなど、ヨーロッパ各地でも記録的な熱波となっております。これらも地球温暖化の影響によるものではないかといわれており、本市と致しましても、これまで築き上げてきたくらしの文化や都市景観を守るためにも地球温暖化対策や生物多様性の保全を真正面に受け止め、危機感を持って取り組んでまいりたいと決意しているところでございます。

本日は、「京都市地球温暖化条例の見直し及び次期京都市地球温暖化対策計画の策定について」及び「次期京都市生物多様性プランの策定について」諮問させていただき予定をしております。

今後1年をかけて、議論を深め、実りのあるものにしていきたいと思っておりますので、皆様の忌憚のない御意見、活発な御議論をお願いいたしまして、簡単ではございますが、御挨拶とさせていただきます。本日は、よろしくお願いいたします。

2. 議題

(1) 会長の互選及び会長職務代理者の指名について

- ・委員の互選により、笠原委員が会長に選出された。
- ・仁連委員が会長職務代理者に指名された。

(2) 部会の構成員及び部会長の指名について

- ・事務局より、各部会の構成案が示された。
- ・会長より、各部会の部会長として、環境基本計画評価検討部会については小幡委員、地球温暖化対策推進委員会については仁連委員、生物多様性保全検討部会については湯本委員、京都環境賞選考部会については山田委員、環境保全基準部会については大久保委員が指名された。

(3) 各部会の審議状況等について（報告）

①「京都市環境基本計画（2016～2025）」の進行管理に関する審議状況について

- ・環境基本計画評価検討部会の小幡部会長から概要説明の後、資料3、参考資料3-1及び参考資料3-2に基づき事務局から説明

笠原会長 京都市の評価方法は、主観的指標と客観的指標からなり、良いやり方だと思う。今後もこのような手法を継続してほしい。

事務局 評価は難しいが、他市の事例等も参考にしながら、より良い評価を検討していきたい。

②京都市地球温暖化対策推進委員会における審議状況について

- ・地球温暖化対策推進委員会の仁連委員長から概要説明の後、資料4、参考資料4-1に基づき事務局から説明

塩路委員 環境レポートを見ると、温暖化対策について市民に対して発信するものとしては市民目線でとてもよく考えられていて分かりやすいが、一方、産業や商工業の観点での内容が読み取れなかった。温暖化対策において、民生、運輸、産業などの分野が、どのように推移しているかがわかりにくいと感じた。

事務局 参考資料3-1の12ページに、部門ごとの温室効果ガス排出量を記載している。エネルギー起源CO2の中に、分野ごとの排出量の内訳を示しており、産業部門は55.6%削減されていて、対策が進んでいることがわかる。一方、家庭部門では進んでいない。京都市では事業者排出量削減計画書制度や、中小事業所の省エネの取り組みを支援するなどにより、産業分野での減少が大きくなっている。今後も排出状況など見ながら考えていきたい。

塩路委員 こうした状況を受け、議論の中で反映されたのか。

事務局 資料の中では記載できていないが、議論の中で話している。

塩路委員 再生可能エネルギーについては、蓄エネが難しいと思う。その観点からも、国では水素に力を入れているが、京都市ではどうか。創エネについて、燃料電池などはどの様に位置付けているか。

事務局 水素について、市では水素自動車を保有して啓発に用いている。また、家庭用ではエネファームなどの補助を行っている。企業に対しては水素活用についてまだ議論できていない。

伏見委員 エネルギーについて、電気や再エネ中心に記載されているが、地域の熱利用などはどう考えているか。エネルギーの中で熱の寄与も大きいと思う。取り組みなど検討されているか。

事務局 熱としては太陽熱利用について補助を行っているが、実際の申請は少ない。太陽熱利用は家庭の省エネに有効であるが普及が進んでおらず、企業についてもどのような補助制度があるかなど、今後重点的に検討すべきと思う。

伏見委員 バイオマス利用については電気利用だけか。熱利用もされているのか。

事務局 クリーンセンターのバイオマス発電では熱も利用している。

③生物多様性保全検討部会における審議状況等について

- ・生物多様性保全検討部会の湯本部長から概要説明の後、資料5に基づき事務局から説明

上田委員 気候変動については、緩和とともに適応が重要とされており、生物多様性への

- 影響も大きい。当部会では気候変動の視点でも議論されているか。
- 事務局 現行のプランでは、世界規模の生物多様性について対応していない。次期計画では対応したい。
- 一原委員 SNS で市民の行動変化の臨界点を超えていないと記載されているが、どのように判断されたのか。
- 事務局 SNS で情報発信した際の反応が少ない。1,000 人や 10,000 人などから反応があってほしいと考えている。
- 一原委員 1,000 人や 10,000 人といった数は京都市の人口などをベースに設定されているのか。
- 事務局 通常の反応が 100 人とか 600 人程度なので、これが常時 1,000 人を超えているぐらいにならないといけないのではないかと考えている。
- 湯本委員 日常的に生物多様性への意識を持てる人を増やす必要があるという意図である。

④平成30年度(第16回)京都環境賞に係る受賞者の選定について

- ・ 京都環境賞選考部会の山田部会長から概要説明の後、資料6に基づき事務局から説明
- ・ 質疑なし

笠原会長 今回いただいた御意見を、各部会で参考にしたい。

(4) 環境分野の計画策定等に向けた方向性及び「京都市環境基本計画(2016～2025)」の間見直しについて(報告)

- ・ 資料7に基づき事務局から説明

- 塩路委員 自動車対策については、排ガス規制などにより環境改善が進んできたため、最近では省エネが主眼になっていると思うが、そういったデータに触れていないのではないか。今どうなっているのか。自動車の環境対策は変革が進んでいるが、京都市として具体的な取り組みの方向性はあるのか。
- 事務局 体系にあるように、自動車対策は排ガス規制から始まっているが、公害に関する部分は環境基本計画に、CO2 の部分は温暖化対策計画に統合していく方向性を考えている。新たな自動車の取り組みとしては都市計画局で取り組んでおり、自動車分担率が 28%から 22.6%に減少するなど自動車抑制の効果が見られる。パークアンドライドなどの取り組みを進めており、今後も対策していきたい。一方、自動車の保有数自体は減っていない状況がある。カーシェアリン

グの拠点は4倍に増えており、こうした新たな取り組みの普及も含め、検討したい。

大島委員 資料3-1にあるとおり、評価について客観的評価と主観的評価に分けて実施されているのはとても良いと思う。主観的調査については「インターネット調査」とあり、調査会社の登録者が回答者となっていると思うが妥当性などチェックはされているか。例えば毎年、市民を対象に生活実感調査などをされているが、そこに項目を入れて経年変化をみるなどをすれば、より効果的な調査になるのではないか。

事務局 指標についても、今後議論してより良い評価のしくみを作っていきたいと考えている。

(5) 京都市地球温暖化対策条例の見直し及び次期京都市地球温暖化対策計画の策定について(諮問)、(6) 次期「京都市生物多様性プラン」の策定について(諮問)

・資料8、資料9に基づき事務局から説明

千葉委員 地球温暖化対策、生物多様性いずれについても、これからの改定スケジュールの中で市民や事業者の参加をどう行う予定か。温暖化対策は家庭からの排出削減がまだ進んでおらず、生物多様性についても市民の意識や行動変革が必要とされているということなので、参加してもらうための体制づくりを検討してほしい。

田浦委員 京都市として1.5度目標を掲げて排出ゼロを目指すにあたって、再生可能エネルギーの活用が課題と思う。100%にするという宣言をしてから取り組むというやり方もあると思うので検討したい。

山田委員 2050年の排出ゼロという脱炭素について、エネルギー起源の炭素以外に、プラスチック等の資源の炭素を何に代替するのか、それはおそらくバイオマスになろうと思うが、その中身を具体的に設定して議論しないといけないと思う。レジ袋だけでなく、もっと踏み込んでリードしてほしい。また、こうした検討では、生物多様性や温暖化対策を別々にやるのではなく、組み合わせて議論しないといけないと思う。

森本委員 熱中症対策をするとCO2排出が増えてしまうといったトレードオフの考え方ではなく、シナジーの対応を考えたい。社会、環境、経済のシナジーをどうやって作っていくのが重要。指針を設定する際にも、やる事が当たり前であったり、やれば儲かるなど、取り組みが動くしくみづくりについての提案に踏み込んでほしい。

(その他)

笠原会長 本日発言いただけなかった御意見について、メールで事務局に提出できる仕組みを作ってほしい。

事務局 対応する。

3. 閉会

・下間地球環境・エネルギー担当局長挨拶

委員の皆様には、長時間にわたる盛りだくさんの議論、貴重な御意見、誠にありがとうございました。本来であれば、まだまだ御発言いただきたいところでしたが、笠原会長からお話頂きましたように、事務局にメールで御意見、御指摘をお寄せいただけるようにいたしますので、よろしくお願いいたします。

本日、地球温暖化対策の条例・計画、生物多様性プランについて諮問させていただきましたが、前回、2009年の諮問からの10年振り返りますと、地球環境を巡る状況は大きく動いております。

地球温暖化対策では、「京都議定書」が大きく飛躍した「パリ協定」が採択され、これまでは数パーセント～数十パーセントの削減目標を掲げていた世界が、一気に「ゼロを目指す」、「脱炭素社会を目指す」という大転換がありました。

裏を返せば、それだけ「危機」が急速に進んでいることの現れであると思います。

生物多様性に関しても、世界の科学者のプラットフォームであるIPBESによる先日の報告書で、「世界で100万種の動植物が絶滅危機にある」ことが公表されました。京都においても、伝統文化継承の危機をはじめ、様々な問題が顕在化してきております。

本日の諮問文は、門川市長が一言一句、こだわって私どもに指示した諮問文です。「私たちは、この地球を、祖先から譲り受けたのではない。私たちの持ち物ではない。未来の子どもたちから借りているんだ」という、ネイティブアメリカンの言葉が引用されております。環境に様々な危機が急速に生じている中、未来の子どもたちに豊かな地球環境をお返しできるかどうか、今、私たちは、その瀬戸際に立たされていると言えます。

京都は、千年を超えて、都市の機能・文化が遮断されずに継承・発展してきたまちであります。その京都で、「京都議定書」が生まれ、更に、「パリ協定」の実行を支える「IPCC京都ガイドライン」が採択されたことには、必然性があると思います。

京都が日本の中で、また世界の中で、果たせる役割、果たさなければならない役割を考えますとき、今回お願いしました審議は、まさしく地球環境の未来をかけた、重要な審議となります。

本市におきましても、本日の諮問を受け、明日朝一番に、門川市長から幹部職員が招集されています。市長を本部長とする、「1.5℃を目指す地球温暖化対策推進本部」を

立ち上げ、全庁体制を敷き、本審議会での議論を踏まえ、また市民、事業者、地域、大学・研究機関、NPO、多くの皆様と御一緒に、あらゆる方策を検討し、そして、覚悟をもって、取り組んでまいります。

委員の皆様におかれましては、本日を出発点として、どうか活発な御審議を賜りますようお願いし、閉会の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。